Tokyo Kasei University

沢尾 絵　SAWAO Kai

家政学部 服飾美術学科　准教授

近代東京の染型紙の調査と文化継承を目的としたデータ資料集成

キーワード　染型紙，浴衣，悉皆（しっかい）調査，デジタルデータ，文化財

研究内容

日本の染型紙は，和紙数枚を重ねて柿渋で塗り固めて文様を彫り，絹糸による紗張りを施すことで制作される日本独自の染色道具です．染型紙による染色の歴史は 400 年を超え，第 2 次大戦前の近代東京では染型紙を用いて浴衣地を染める注染が隆盛しました．しかし現在では，染型紙を彫る職人も，注染による浴衣地を作る染色業者も激減しています．

本研究では，操業 130 年を迎え，今なお注染による浴衣地を作り続けている三勝株式会社（東京人形町）が保有する大量の染型紙について，悉皆調査を行っています．染型紙を文化財として後世に引き継ぐためにデジタルデータ化を進めるとともに，新たな局面で活用していくことを目指して調査を続けています．

型紙調査・撮影の様子（三勝株式会社にて）

関係論文，特許・著作物等の知財情報，連携の実績

・沢尾 絵「『主婦之友浴衣』にみる 1920 － 1930 年代の大衆の浴衣」，『小林孝子衣服標本資料集』pp.110-113，日本女子大学総合研究所 小林孝子衣服標本研究会，2022 年 2 月 28 日

・沢尾 絵「小林家の浴衣を通してみる 1920 － 1930 年代の大衆浴衣」，『日本女子大学総合研究所紀要』第 25 号，pp.29-42, 2022 年 11 月 1 日

社会連携・産学連携の可能性

研究資料としてはもちろん，新商品などに展開するための素材として，デジタルデータの活用の幅は大きく広がります．